

日本山岳会が選ぶ山岳古道 120 選

日本山岳会は創立 120 周年を迎えるにあたり、記念事業として、全国的に山岳古道の調査を全国的におこないます。

全国にある無数の山岳古道のうちから 120 の道を選び、その古道を中心に、文化的・歴史的・地理的に探索・調査をします。

調査した情報は、広く一般社会にホームページで公開し、最終的には後々まで残る書籍を作成します。

歴史や文化を肌で感じる新しい山の楽しみ方を提案するとともに、地域社会への貢献を図ります。

とくにこれまで長年にわたって独自に古道の調査を続けてこられた方々ともネットワークをつなげ、より多くの方々に古道の魅力をお伝えしたく考えております。

また、地方自治体などとも連携し、協力して古道の保全につなげていきたいと考えております。

■ 第 1 次 調査対象古道 ■

	古道	都道府県
1	増毛 ^{ましげ} 山道	北海道
2	殿様街道	北海道
3	恐山をめぐる参詣道	青森
4	蔵王山をめぐる参詣道	宮城／山形
5	栗駒古道	宮城／秋田
6	二口街道（秋保街道）	宮城／山形
7	秋田街道	岩手／秋田
8	上羽の古道六十里越街道（湯殿山に向かう道）	山形／宮城
9	越後米沢街道・十三峠	山形／新潟
10	沼田・会津街道	福島／群馬
11	八十里越	福島／新潟
12	六十里越古道	福島／新潟
13	日光修験の道	栃木
14	大峠（会津中街道）	栃木
15	赤城山をめぐる参詣道	群馬
16	榛名山をめぐる参詣道	群馬
17	上州から越後への道	群馬／新潟
18	十文字峠越え	埼玉／長野
19	秩父往還（熊谷から「雁坂峠越え」で川浦口留番所跡）	埼玉山梨
20	日原秩父往還と富士信仰の道	埼玉／東京



案下道 陣馬街道

案下道の起点となる甲州街道の八王子市追分交差点の交番の脇には「左甲州街道中高尾山道 右あんげ道 文化八年六月 江戸清八」と刻まれた道標が立っています。
高尾山参詣のための江戸時代の道標で、文化八年（1811年）に建立されたものを復元したものです。

全国山岳古道調査プロジェクト制作

21	鹿野山道	千葉
22	古甲州道	東京／山梨
23	大山をめぐる道	神奈川
24	箱根旧街道	神奈川
25	足柄古道	神奈川／静岡
26	会津街道のうちの諏訪峠	新潟
27	枝折峠（銀の道）	新潟
28	塩の道・千国街道	新潟／長野
29	立山をめぐる参詣道	富山
30	信越連帯新道（立山・信越・越信・針ノ木・越中新道）	富山／長野
31	有峰への道から薬師岳参詣道	富山
32	白山をめぐる禅定道	石川／福井／岐阜
33	北陸道 木の芽峠越え	福井／滋賀
34	鯖街道	福井／滋賀
35	金峰山古道（御嶽道）	山梨／長野
36	南アルプス北部山岳古道	山梨／長野
37	島々谷から徳本峠・中尾峠	長野
38	遠信古道（秋葉街道）	長野
39	伊勢街道	岐阜
40	富士山をめぐる登山道	山梨／静岡
41	飯田街道 伊勢神峠	愛知
42	鈴鹿山脈越えの山岳道	三重／滋賀
43	比叡山修行道	滋賀／京都
44	葛城修験の道	大阪／奈良／和歌山
45	吉野に向かう道	奈良／和歌山
46	大山道（5本）	鳥取
47	石見銀山の道	島根／広島
48	因幡街道：智頭往来志戸坂峠越えと宮本武蔵の道鎌坂峠越え	岡山／鳥取／兵庫
49	萩往還	山口
50	四国八十八か所結願直前の山越えの道（87 番札所から 88 番札所）	香川
51	別子銅山廃道	愛媛
52	坂本龍馬脱藩の道	高知
53	肥前・筑前街道 脊振坂越え	福岡／佐賀
54	英彦山をめぐる道	福岡
55	薩摩街道高岡筋	宮崎／鹿児島
56	六郷満山峯入りの道	大分
57	椎葉村をめぐる山岳古道	熊本／宮崎
58	飫肥 ^{おび} 街道	宮崎／鹿児島
59	首里城をめざす道	沖縄

案下道は古くから生活の道、交易の道だった

陣馬山は標高 854.8m、東京都と神奈川県^の境に位置し、山頂からは富士山をはじめ、丹沢や大菩薩、奥多摩、奥武蔵の山々 360 度を見渡せる抜群の展望の山です。

案下道^{あんげ}、いわゆる陣馬街道はこの陣馬山の北の尾根の先にある和田峠を越える道です。

案下道は古くから江戸と甲州を結ぶ重要な道として利用されてきました。甲州街道の八王子市追分を出発し、恩方^{おんがた}を経て和田峠を越え、佐野川村^のを^を通^をって上野原で再び甲州街道に合流します。

現在の陣馬街道という名になったのは 1963（昭和 38）年のことで、それまでは街道沿いにある地域名から「恩方街道」「佐野川往還」「案下道」などと呼ばれていました。また、甲州裏街道、甲州脇往還などとも呼ばれていました。和田峠も「案下峠」と呼ばれていました。

陣馬街道は車道として新しく整備されたもので、むかしの案下道とは、いくぶん異なっているところを通ります。

古くから甲斐の産物を江戸に運ぶための重要な交易路であり、明治時代には生糸が恩方より御殿峠を経て横浜に運ばれ、輸出されていました（八王子市には「絹の道」が残る）。上恩方町の高留には人や物品の出入りを監視していた口留番所跡があり、多くの人が利用していたことが推測できます（北条氏が和田峠に設けた番所を徳川氏が高留に移したもの）。

縄文や弥生時代の遺跡が沿道に分布していることから、有史以前からこの道が生活道として利用されていたと考えられています。

いまでも沿道には浄福寺城跡をはじめ、石仏、板碑などが数多く残り、また民俗行事「上案下のセエノカミ」や郷土芸能「小津の獅子舞」が伝承されており、当時の活況をうかがい知ることができます。

武田信玄の娘松姫は 7 歳の時、織田信長の長男信忠と婚約しましたが、三方原の合戦で敵味方となり、12 歳の時、信玄が死亡して武田家は滅亡へ向かいます。松姫は高遠城に逃げていましたが、織田の追撃にあい、幼い姫たちを連れて案下道を通して上恩方の金照庵に逃げ込みます。しかし本能寺の変で、織田信長、信忠は死去。松姫は下恩方の心源院に移り、「信松尼」となり、信忠や武田家の人々の冥福を祈りました。松姫 22 歳の時です。信松尼の「信」は信忠の信だと言われています。



松姫もなか



あんげ道の追分から和田峠間のルートは、東京都教育委員会『歴史の道調査報告書第六集 佐野川往還』などを参考にした。和田峠から上野原の間は資料がないため、推測で書いたものである（破線）。
《地図：国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図》

案下道
陣馬街道